シンポジウム

2025.9.25　　2025.9.29

先日、JS レベルの学生たちが、３ヶ月間の「アカデミック・ジャパニーズ」授業の集大成として、シンポジウムを行いました。テーマは「科学技術の進歩は人類を幸福にするか」です。学生たちは、これまでの講義や討論活動、レポート作成などを通して深めた知識や見識をもとに自分たちの意見をまとめ、その成果を発表しました。「アカデミック・ジャパニーズ」の授業では、「歴史」「生命倫理」「経済学」「環境問題」など幅広い分野に触れながら、科学技術の恩恵や、社会・生命倫理への影響などを多角的に考察してきました。討論に必要なスキルを身につけるために、資料の読み取りや進行の練習をし、意見交換のための適切な表現や必要となる姿勢などを学び、クラス全体で活発な議論を重ねてきました。この授業の大きな特徴は、シンポジウムの実施という最終的な課題を達成させるために、必要なスキルや知識を“何日もかけて”身につけていくことです。

シンポジウム当日は、司会やパネリスト、他クラスからの参加者などがそれぞれの役割を果たし、質疑応答や討論で大変盛り上がりました。「自動運転技術が発達し、完全自動運転の自動車ができた場合、運転したいか」「経済発展はいいことだが、環境問題を無視していいのか」など、授業で培った知識をもとに、鋭い質問が飛び交い、白熱した場となりました。

シンポジウム後の授業で行った振り返りでは、リハーサルの重要性や、もっとこうすればよかったなど、改善するための意見が多く出てきました。学生は非常に、自主的かつ前向きに授業に参加していたことがうかがえました。また、「発表をより良いものにするためにはチームワークが一番大事だが、それは良かった」という意見も印象的で、学生が力を合わせてチーム一丸となって準備していたことが改めて分かり感動しました。今回のシンポジウムは、学生たちにとってプレゼンテーション能力やディスカッション力を実践的に試すことができる貴重な場となりました。進学後の研究や発表の場でも、今回の経験が活かされることと思います。